

人口減少社会を見据えた農村地域などのコミュニティ維持形成

地域名：栃木県宇都宮市国本地区

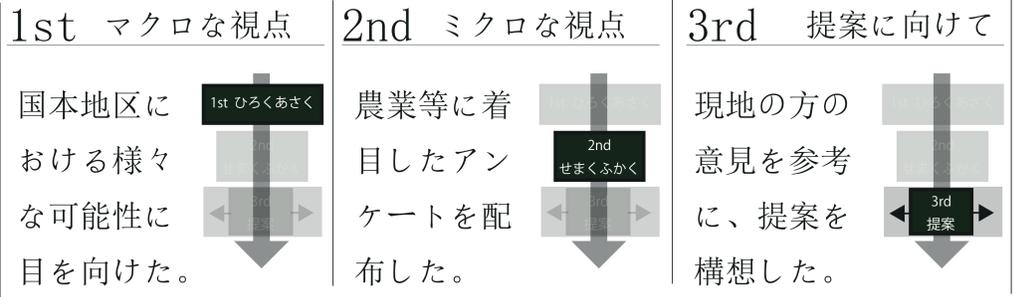
パートナー名：宇都宮市都市整備部都市計画課

4班 コミュニティデザイン学科 菊池紅音 布宮和花菜
 社会基盤デザイン学科 富塚黎 服部直樹
 建築都市デザイン学科 木村太陽 外岡良汰

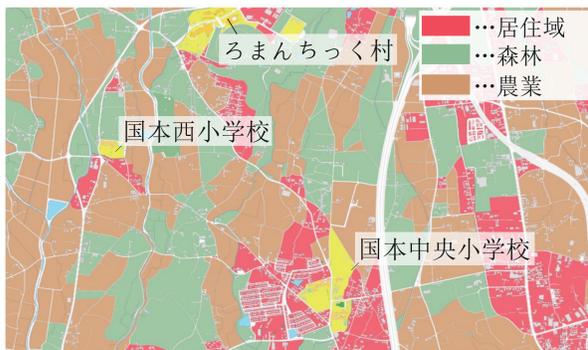
1. 目的

国本地区で地域のコミュニティの維持形成、
 国本西小学校で生徒数の緩やかな増加を目指す
 ↓
 地域に住んでみたい、住み続けたいと思ってもらえる地域の資源を活かした魅力づくり

2. 方法



3. 背景



①. 農地の多さ

国本西小学校周辺地域には農地が多く存在している
 ↓
 農地の豊富さを生かして、農業を中心とした取り組みが望ましい



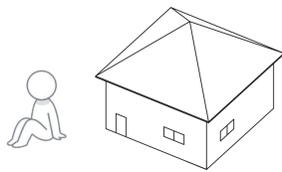
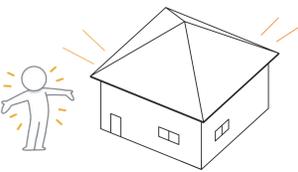
③. 先進事例その1

古民家を改修した会員制農家民宿（茨城県常陸大宮市）
 メリット
 ・利用者が特定でき、周辺住民の方への負担が少ない
 ・定住化に繋がりがやすい

空き家問題が生まれるまで

(1) 住宅に人が住む

(2) 居住者の高齢化

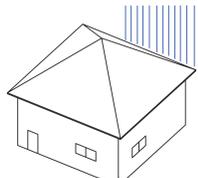


(3) 担い手不足

建物の老朽化



(2) 空き家の発生



②. 空き家問題

少子高齢化や住宅ストックの余剰等の社会的情勢を背景に、「空き家等」は増加傾向にある。
 ↓
 空き家を生かした提案をすることで、負の遺産にすることなく、地域コミュニティ形成に繋げる。

みなかみ町体験旅行
 観光センター1階に入居



民宿に飾られている子供達の感謝の声



体験農家民宿敬ちゃんち
 台湾の学生も受け入れ



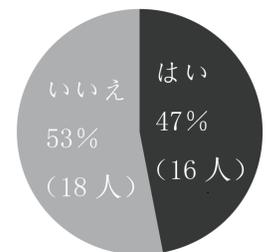
体験学習所



④. 先進事例その2

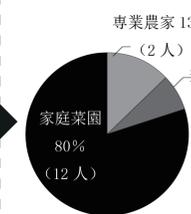
インバウンド グリーンツーリズム（群馬県みなかみ町）
 内容
 農家民泊や農業体験等を内容とする教育旅行や一般観光客向けのアウトドア等を内容とする旅行商品を作成・提案
 効果
 受け入れた観光客は H21 の2団体から H26 に117 団体に拡大。（うち農家民泊の利用者は、51 団体）

4. 分析結果（2nd アンケート結果より）



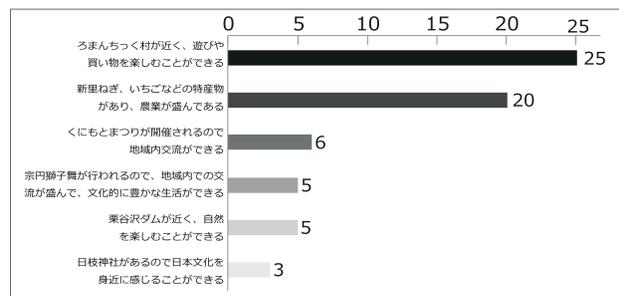
回答者数：34名

数年以内に農作物を育てた経験のある方が約5割



回答者数：15名

34名中3人が専業、兼業農家

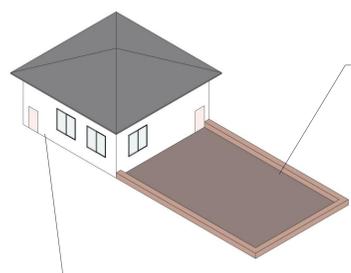


質問
 地元住民の方にとっての国本地区の魅力は何ですか？（複数回答可）

ろまんちっく村を活用することで国本地区独自の魅力を生み出せる可能性

5. 提案

空き家を活用した農家民泊



・運営する際に様々な世代が関わることで、地域のコミュニティ維持形成へ

- ・地域の小学生に加え、都市部に住む小学生等の農業に触れる機会に
- ・会員制の農家民宿とすることで、宿泊客と地域の人との繋がりが深まる

内容

- ・地域が主体となった取組の一助となるよう、地域の取り組みと連携した事業を提案
- ・地域が有する資源（魅力）の発信ツールとして、さらに、その魅力に触れてもらう機会を創出することで、地域における交流の促進を図るとともに、地域を知ってもらうことで定住のきっかけ（二地域居住）にする

課題と対応

事業性の確保

・宿泊に対応する空き家改修（初期投資）や、法に基づく年間営業の上限日数、宿泊を促す低廉な価格設定など、事業としての成立性に課題 → 事業目的から事業性（利益）を追い求めるものではないが、赤字にならないレベルの事業性確保を基本に、地域連携（運営）により運営削減を図る

地域の魅力

・宿泊時（短期間）において、効果的に地域の魅力を知ってもらえるような仕組みが必要 → 季節に応じて地域の魅力を感じられる体験事業（農業・収穫・味わうなど）を宿泊メニューへ